

「輝け憲法と地方自治」～連帯のちからで情勢を確かなものに～

まびだんご

2010/5/21(金) NO.5
発行：第10回地方自治研究全国集会岡山県実行委員会
事務局：自治労連岡山県本部
Tel086-223-0911・Fax086-227-1393
jichiroren-okayama@ac.auone-net.jp



うら
温羅くん

第10回地方自治研究全国集会 in 岡山

10月16日(土)岡山シンフォニーホールほか

- 12:00～ 受付開始
- 12:45～ 現地歓迎行事
- 13:45～ 記念講演
- 17:30～ ナイター講座

10月17日(日)岡山大学一般教育棟ほか

9:30～15:30 分科会・講座

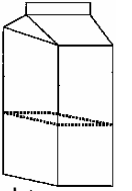
参加費

2日間参加 / 1日のみ参加
 議員など自治体関係者 6,000円 / 3,000円
 住民団体、個人、学生 2,000円 / 1,000円

宿泊費、旅費、弁当代、現地ナイター講座、現地分科会の参加費は別に料金がかかります。

生き生きフェスタで学校用務部門が行う「フラワーアレンジメント」用の花器として使用する紙パックを集めています。5月28日までに倉敷市職労「フェスタ用務委員会」へ集まった個数をご連絡ください。(担当：金光)
 倉敷市職労 アドレス
 sishoku@mx91.tiki.ne.jp

500ml以上の牛乳やジュースの紙パック
 底から7cmでカットしてください(底を使用します)



生き生きフェスタ in たかはし ～第10回地方自治研究全国集会プレ集会～

とき 6月20日(日)10時～15時 まちづくり地域づくりを考える

ところ 高梁総合福祉センター 高梁の現地実行委員や各ブースの担当者は、休日返上でプレ集会の準備をすすめています。アイデア満載！親子で楽しめるイベントや「まちづくり地域づくりを考える」集会に、多くの自治体職員や地域住民のみなさんに参加してもらえるように呼びかけて下さい。

参加費 無料

【日程】

10:00～ 備中太鼓でオープニング

色々なブースがあり親子で楽しめるイベント満載です!!

- ・フラワーアレンジメント
- ・親子で楽しむ工作 ・介護相談
- ・絵本のよみかき

10:30～11:00

13:30～14:00

・給食の試食 11:30～

・アユのつかみどり(着替えを準備してね)

・アユの塩焼(有料)

・あげパン&牛乳(有料) など

14:30～ 備中神楽(もちなげ)

15:00 閉会



アルミ缶をお持ちより下さい
 アルミ缶の収益で車椅子を購入して寄贈します

【同時開催】

13:00～15:00 / 2階大講義室

開会あいさつ

問題提起

「地域主権改革」と中山間地域のまちづくり

岡田 知弘さん(京都大学大学院経済学研究科教授)

特別報告

高梁市のまちづくり施策

加藤 幹生さん(高梁市企画課長補佐)

前野 洋行さん(高梁市歴史まちづくり課長補佐)

報告

岡山県の中山間地域対策

武田 英夫さん(岡山県議会議員)

高梁市内の集落活性化計画に取り組んで

霧 理恵子さん(吉備国際大学准教授)

意見交換・まとめ

閉会のあいさつ



岡 講
田 師
知 紹
弘 介
さん

1954年、富山県生まれ。専門は地域経済論。自治体問題研究所理事長、日本地域経済学会理事長。主著に、『日本資本主義と農村開発』『地域づくりの経済学入門』他

* 現地分科会 10月17日

* 現地分科会の参加費は別途がかかります(検討中)

現
地
分
科
会
の
魅
力
を
語
る

倉敷のまちなみ保全(倉敷美観地区周辺)

テーマ：町衆文化のまち倉敷を歩く

討論内容：伝統的建造物群保存地区に指定されている江戸時代天領であった町衆文化のまち倉敷を散策し、景観保存について学習する。



白壁土蔵になまこ壁、軒を連ねる格子窓の町家、川面に映る柳並木・・・倉敷川沿い一帯の「美観地区」には情緒豊かな町並みが形作られ伝統的建造物群保存地区に指定されています。

江戸時代「天領」であった倉敷には町衆文化が

栄え、商人で活躍した倉敷最古の住宅井上家や重文の大橋家・大原家は今でも保存され、また、当時の土蔵や民家を再生した民芸館・考古館・物語館などの文化施設や飲食店・土産物店は数多くあります。再生にあたっては美観・景観を厳しく審査されています。

コース内の洋風建築では町役場跡(現観光案内所)やロダンの彫刻やエンタシスの柱が迎える大原美術館(日本最初の私立西洋美術館でエルグレコ「受胎告知」モネ「睡蓮」などで有名<館内見学>)も町並みに溶け込んでいます。

また、紡績工場を再生したアイビスクエアや「本田彗星」で有名な日本最初の民間天文台、永世将棋名人「大山康晴」記念館、星野仙一記念館なども散策コースに含まれています。

なお、当日は地元阿智神社の秋祭りで、数十軒の町家では屏風などのお宝を飾りお披露目をしています。

紡績工場の女工さんの栄養補給として当時の労働科学研究所(倉敷発祥)が考案した労研饅頭(ロウケンマントウ)を贈呈します。(責任者：山川元昭さん、自治体問題研究所事務局長)

長島愛生園と備前焼き祭り

テーマ：ハンセン病問題の現状と未来への展望

討論内容：国立療養所長島愛生園を見学しハンセン病問題の歴史とこれからの課題について学習したのち、備前焼き祭りに移動し日本六古窯、備前焼に触れる。

ナイター - 講座「おかやま楽」

* 10月16日17:30～19:00

* 岡山シンフォニーホール内

* 参加費が別途がかかります(検討中)

テーマ：おかやまの楽民話と民謡と地酒

討論内容：立石憲利さん(岡山民俗学会理事長)の民話を聞き、民謡下津井節の解説と民謡レッスン、備前焼のぐい飲みで地酒を楽しむ



児島のジーンズ産業・水島の環境

テーマ：公害からの環境再生の現状とジーンズ発祥の児島

討論内容：大気汚染公害地域、水島での環境再生・まちづくり、瀬戸大橋の景観破壊・騒音問題、そして児島が世界に誇るジーンズから地域づくりについて考える。



午前9時にJR倉敷駅北口（チボリ公園跡地前）をバスで出発し、倉敷市街を通り抜けて水島へ向います。日本有数のコンビナートを有する水島は、かつては大気汚染公害による深刻な被害に悩まされていました。13年間におよぶ裁判の末1996年に和解が成立。その後、財団法人水島環境再生財団が設立され住民との協働によるまちづくり・環境再生に取り組んでいます。

本ツアーでは、まず、「水島の公害から環境再生のとりくみ」について、講義や活動報告などから学んでいただきます。

そして、鷲羽山展望台へ移動し、水島市街・コンビナートを一望しながら解説を行います。

その後、バスは児島へ。瀬戸大橋の真下にある「瀬戸大橋展望公園」へ立ち寄り、その騒音を体感し、対策・とりくみや景観問題を解説します。

瀬戸内海国立公園・瀬戸大橋が一望できる高台の「鷲羽山レストハウス」で昼食休憩となります。

午後は「国産ジーンズ発祥のまち」児島の塩田王、野崎武左衛門邸宅・天然藍を使った「手染め」工場（藍布屋）を見学し、染め方・ジーンズの歴史に関する話、ジーンズ産業とまちづくりの関わりなどを聞きます。勿論、染め物体験やジーンズの購入もできます。

解散場所のJR児島駅前には海産物や菓子など土産物の買える店があります。

（責任者：柏野静雄さん、倉敷市職労）

ハンセン市民学会総会・交流会

闘わずして解決はない / 将来構想を考える取り組みを

5月8日～9日にかけて岡山で開催されたハンセン市民学会総会・交流会には900名の参加がありました。

牧野市民学会共同代表は主催者あいさつで「隔離されていることがいかに辛いか、風化させてはならない」と述べ、この集会を成功させるために、岡山・香川両県から300人のボランティアがかかわっていることを紹介し感謝の言葉を述べました。（このボランティアには地方自治研究集会・現地実行委員会からも多くの方が参加しました）

「5年物の払い下げの米と妻の食事は臭いがひどく食べられなかった」「800人の予算措置（定員）に1200人入所していた」「結婚しても6畳の部屋で2組が生活」「入所してみるみる回復していったが、国の政策として療養所から出て行ってもらうわけに行かない、人生の最後を迎えてくださいと言われた」など、人権無視の隔離政策である当時の状況が報告されました。こうした元で「自ら闘うしかない」と気づき50年間一途に生きてきた事が証言されました。

また2009年4月に新しい法律・ハンセン病問題基本法が施行されたが「ほこりをかぶっている、もう時間がない、激しい憤りは少しも衰えていない。闘わずして何の解決もない」と述べると共に、地域との交流を進める療養所の将来構想について「香川県の大島は、陸から8kmの沖合にあり橋もない。政府は療養所側が案を出せば検討すると言うが、離島に押し込めた政府の方こそ解決案を出すべきである」と指摘しました。風化させない取り組み、将来構想を考える取り組みが今後にも必要になっています。（10月の地方自治研究集会では、現地分科会として長島愛生園で学ぶ分科会を行います）

集会では療養所での生活などの展示がありました。入所した子どもの作文と写真を紹介します。



お母さん
机に向かっていた
お母さんとお母さんと
眠っている友が
お母さんを呼んだ
お母さんの夢を見てるんだと
思うと
急に悲しくなつて
僕もそこ
「お母さん」と
勉強やめてよんで見た
高一男子 一九四一 八二二

核兵器廃絶は空想ではない 積み重ねの運動がそれを実現させる

県原水協 平井昭夫事務局長



5月15日に開催した全国自治研第4回現地実行委員会では、県原水協からNPT再検討会議要請行動に参加した平井昭夫さんに報告してもらいました。運動の到達点として、「核兵器廃絶は空想的なものだったが手が届く所に近づいてきた。賽の河原で石を積み重ねるような積み重ねの長い運動が報われた」と述べました。岡山の代表団はBコースでニューヨークへ入ったこと。5月2日のブロードウェイ42丁目で行われた集会は大変暑いなか、道路に仕切りのフェンスが設置された中で行われ多くの人々が参加。岡山の参加者団は行進出発まで3時間待って国連に向かってビル谷間を行進したこと。また、日本原水協が中心になって集めた署名690万人分以上の署名を提出したこと。現地での署名活動では1500人が参加し、10,600筆の署名を集めた事をパワーポイントで写真を見せながら紹介しました。



心に強く感じたこととして平井さんは、5月1日の国際平和会議で国連事務総長が「政府を動かすのは皆さんの力」と発言し草の根の力を強調したことに大きな感銘を受けたと報告しました。

ケンブリッジでの被爆者の話に150名の高校生が参加。その中で高校生から、原爆を落としたアメリカに対してどう思うかとの質問が出され、「原爆投下は許せないが、アメリカ市民への憎しみはありません」と被爆者の人が応えたこと。またボストンの平和の家を訪問し千羽鶴を渡したことなどを報告しました。

帰国後間もない、まさにできたてほやほやの、報告をまとめている最中の話題提供でした。ちなみに岡山では5月21日に報告集会が開催されました。